



2021年9月12日

森と海の自然科活動案内 テーマ「里川」

京都北部の疏水巡りの散策あれこれ

京都は平安以来千年の間我が国の首都として栄えてきましたが、明治2年東京に都が移り産業も急激に衰退し、人口も急減してきました。衰退していく京都を復興させるため、特に産業の復興を図ることを計画されたのが疏水事業でした。事業の主唱者である北垣国道府知事や工事を担当した田邊朔郎、府市関係者、市民が京都の将来を考えて、明治18年（1885年）から幾多の困難を乗り越え明治23年（1890年）に第1疏水が完成した。

上記の文章は9月16日に予定していた例会案内状に書かせていただいたものです。本当でしたら、京都南部（鴨川運河）の疏水巡りをした後に、第2弾として今回の疏水巡りを計画しておりましたが、コロナの関係で京都北部の疏水巡りが先になってしまいました。

さて琵琶湖から第1、2疏水から流れてきた疏水の水は、蹴上から西に流れていく疏水と北に流れていく疏水に分かれます。蹴上から南禅寺、哲学の道、銀閣寺前を流れる疏水は白川通りを北上し叡電線路の下をぐり高野川を越え松ヶ崎浄水場前を暗渠となって通過し、千本通りから南下し賀茂川の下を潜り紫明道を進み堀川通りから疏水は堀川となって真っ直ぐ二条城を経て京都駅の西側で暗渠から出ますが直ぐにまた暗渠となり鴨川に流れ込みます。（詳しくは別紙の地図を参照）

（C グループ担当 金高）

記

- 1：日 時 2021年10月21日（木） 10時30分 雨天等で中止の場合は前夜メール
- 2：集 合 京阪神宮丸太町駅南改札口に集合してください
- 3：持ち物 マスク、弁当、飲み物、雨具、シート、双眼鏡、日傘 等
- 4：見学地 鴨川運河起点地、夷川発電所、船溜まり、吉田神社、子安観世音、河川との合流地、松ヶ崎浄水場、疏水分線、戻り橋、堀川、安倍晴明神社、等々
- 5：行 程 約9～10km 距離は平坦ですが車道歩きで疲れます。水分補給をしっかりと確保する。

神宮丸太町駅・・・鴨川運河・・・夷川発電所（船溜まり）・・・熊野神社・・・吉田神社・・・吉田山山頂（休憩）・・・道標・・・子安観世音・・・疏水との出合・・・叡電踏切・・・公園（昼食予定地）・・・疏水分流地・・・高野川出合・・・松井ヶ崎浄水場・・・下鴨本通り・・・賀茂川出合・・・紫明道・・・堀川通り・・・戻り橋・・・堀川・・・二条城駅（解散）

* 本日のコースは少し長く、変化があまり富んでいませんので、途中賀茂川出合の所で解散することも可能です。当日、皆さんの体調具合によりコースを短縮することもあります。



← 鴨川と運河

夷川発電所 →

